
僕の側に君がいた

唯羽 ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の側に君がいた

【Nコード】

N9840B

【作者名】

唯羽 ユウ

【あらすじ】

僕の周りにはいつも君がいた。いつもいつも君の笑顔があった…。即興で書いたショートショートです。小説というより、詩っぽいかもしれません。

学校の屋上で寝そべりながら、僕は1人空を見上げる。

たった1人で空を見上げる。

僕の周りにはいつも君がいた。

いつもいつも君の笑顔がそこにあった。

君は僕が告白した時のことを覚えているかい？

ああ、そうさ。

この屋上でだったな。

君の恥ずかしそうな顔が眩しかった。

君と初めて手を繋いだのもこの屋上だった。

君と初めてキスを交わしたのもこの屋上だった。

君と愛を分かち合い、将来を約束したのもこの場所だったよな。

それなのに……

今、僕は一人でここにいる。

なあ、なんで君はいつてしまったんだ？

なぜ僕を1人にしたんだ？

……。

ああ、分かってるよ。

僕は生きなきゃいけないよな。

君のためにも。

君は最後の最後に言ってくれたよな。

苦しいはずなのに、そんな力は残って無いのに、僕の手をギュッと握って言ってくれたよな。

弱々しい声で

「幸せになつて」

つてな。

分かつてるって。

君との約束は絶対に守ってみせる。

君の分まで幸せになつてみせるから。

でもさ、たまにはいいだろ？

君のことを思い出して、君のいる天国を下から眺めるくらい。

君は僕にとって特別な存在だから。

君と少しでも近くにいたいから。

……。

今日の空はとてもとても高かった。

ああ、だから秋は嫌いなんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9840b/>

僕の側に君がいた

2011年1月16日02時19分発行